

近代日本女性和装の変遷

— 絵画に描かれた和装女性のプロポーションと裁縫教科書に見る寸法 —

高月 智子* 能澤 慧子**

Transition of Japanese women's style in kimono from the Meiji era to the
Second World War

— Women's proportions in paintings and dimensions in kimono sewing textbooks —

Tomoko TAKATSUKI, Keiko NOHZAWA

1. はじめに

明治の開国以来130余年を経た今日、和服は日常生活の場において洋服にその地位を譲った観がある。女性の服装にあっては、第一次世界大戦後、すなわち大正8年ごろから欧米の女性の服装が急激に簡素化し、我国にいわゆる「あっぱっぱ」なる洋服が広まった時期を一般社会への洋装普及の第一歩と見るのが通例であり、従ってこの時期をもって女性の和装衰退の第一段階とみなすことができよう。これ以降洋服化が順調に進み、第二次世界大戦中に一時的に停滞したものの、戦後はこの傾向に一層の拍車がかかり、現在に至ったのである。

しかし、我国における女性の洋装の受容は、単に「あっぱっぱ」などに象徴される簡便性のみによるのだろうか。洋装の持つ、和装とは異なった美に対する評価無くして、伝統様式を捨て去り、新様式を受容し得るものであろうか。

本研究はこうした疑問から出発し、事実上の洋装から和装への移行ではなく、女性の和装における美意識が伝統的和装的なものから洋装的なものへと移行する過程を探求することを目的としている。本稿では特に日本髪を結って頭部を強調し、幅広い帯を結んで重心を低くし、その結果脚部を短く見せた我国の伝統的プロポーションから、ウェストを高く、頭部を小さく作り、脚部を長く見せる欧米風プロポーションへの好みの変化を追うことにした。そこで時代ごとの女性の姿に関する美意識を反映していると考えられる絵画作品を対象とし、描かれた和装女性像のプロポーションの変遷を調査した。

他方、この絵画の世界とは別に、現実の世界の和服にはどのような変化があったのだろうか。各時代の女物長着の仕立てに用いられた各部位の寸法は、和装姿の理想的プロポーションのあらゆる変化を直接的に反映したとは考えにくいものの、決して無関係とは思えない。明治時代から昭和初期までの時期に出版された和裁教科書を当時の女物長着の寸法を知る手がかりとし、

* 家政学研究科 博士後期課程2年

** 服飾美術学科

特に長着各部位の寸法のうちで和装のプロポーションを左右する要素を持っているものの一つである袖付け寸法に焦点を当てて調査した。

絵画に描かれた和装女性像のプロポーションの変遷、和裁袖つけ寸法の変遷、及び双方の調査結果の対照のいずれにも注目すべき傾向が見られたので報告する。

2. 絵画に描かれた女性像

明治時代には我国に西洋絵画が本格的に導入され、西洋風の写実主義とその手法を用いた作品が制作された。その厳密な写実性故に、描かれた人物像のプロポーションは現実に密着しているものと考えられる。しかし残念なことに、初期の我国の洋画には和装の女性全身像の例が少ないために、当研究の対象からは割愛した。

他方日本画の分野に目を向けると、濱中真治氏は、明治時代後期から昭和にかけての時期をいわゆる我国の近代的「美人画」成立の時期とし、この間の女性を主要モチーフとした画中の女性像の変遷を次のように捉えている^{注1)}。明治時代には先行の江戸時代の浮世絵から発展した錦絵、狩野派を始めとする日本画の諸派の流れを汲みながら、西洋風の画法や表現技術を取りこんだ女性の描写が登場してくる。明治時代中期に一時的に歴史上の人物を借りて女性美を示そうとする傾向が生じ、非現実的な理想化された描写が見られたが、次期の画家たち、たとえば東京の籀木清方、京都の上村松園の目は身辺の女性たちの上に注がれ、そこに見出した女性の美しさをそのまま描くようになった。そして明治末期から大正時代にかけて、時代の新しい目に映った女性美や作者の個性的な眼が発見した女性美を各自が描くようになり、ここに近代的「美人画」の誕生を見るとし、その後次第に女性の持つ肉体の美しさを軽視する傾向が生じる中で、伊東深水・椋原比佐子・寺島紫明は、肉体的な美しさを再び取り上げたとしている。

このように日本画の世界では女性の美を主題とするジャンルが早くから存在し、明治時代から昭和初期に至るまで多くの画家が様々な試みを重ね、数多くの作品を制作し、常に活況を呈してきた。女性美表現に関してこうした活気溢れたジャンルにこそ、各時代の女性美の意識が最も端的に姿を現したとみることができよう。

また日本画では上記のように非現実的世界から日常性へと関心を移し、洋画の影響を受けながらも、少なくとも人物画においては常に様式化から抜けきってはいなかった。写実と様式化との絶妙な調和こそ近代日本画の面白味とさえ言えよう。従ってそこに描かれた女性の和装姿も、画家たちが現実の世界に見出した美の写実でありながら、同時に画家たちの美の観念、あるいは意識による様式化のフィルターを通した結果なのである。画家たちが取り上げた現実世界に照らした彼らの内面世界、すなわちその美意識は、同時代人の中にも、顕在とまでは行かずとも、少なくとも潜在していたと言えよう。本研究ではこうした意味で、日本画中の、いわゆる「美人画」の系列に属する女性像を時代の心性を伝える歴史資料とみなし、調査の対象としている。

3. 方法

1) 和装女性像を描いた作品の収集

明治・大正・昭和初期に描かれた女性の全身立像184点を選んだ(表1、文末参照)。選択に当たっては、山種美術館31周年記念特別展『美人画の誕生』の出展品を中心とし、可能な限りその周辺の作品を加えた。明治時代の錦絵は様式的であるため、ここには加えていない。

プロポーションを見るという目的のためには全身立像であることが不可欠であるが、実際には半身像や坐像が多く、また全身立像であっても、身体を反らせていたり、かがんでいる例も少なくなく、このため資料の収集に難渋した。この結果、画派、画法、主題など特に限定せず、多岐にわたるものを含めることとなった。

2) 制作年代によるグループ分け

これらの作品を制作年により10年間ごとにグループ分けした。ただし明治初期から20年代一杯、適切な作品数が極めて少なく、ことに10年代は1点しか得られなかったため、この約20年間は一まとめにした。時代区分の番号と年代は以下の通りである。

① 明治前期～1882年 (M19)	7点
② 1883～96年 (M20～29)	9点
③ 1897～1906年 (M30～39)	16点
④ 1907～16年 (M40～T 5)	35点
⑤ 1917～26年 (T 6～15)	48点
⑥ 1927～36年 (S 2～11)	43点
⑦ 1937～47年 (S 12～22)	26点

上記のように、グループごとの作品点数が一定せず、統計上必ずしも完全とは言いが、少ない数に全グループの数を揃えるためには豊富なグループの件数を削除せざるをえず、その結果全体としての件数を大きく失うことになる。そのため今回は止むを得ず、件数不定の状態ですべてのグループの平均値を出すことにした。

3) 測定

プロポーションでは身長、頭部の長さ、ウェストラインの位置が主要な要素となる。ここではヌード状態でのプロポーションではなく、着物を着装した状態でのプロポーション、いわば見せかけ、言いかえるならば偽装のプロポーションを求めようとしているので、帯の位置をウェストラインとみなし、下記のA・B・C・Dを測定した。(図1～4)

A. 頭部の長さ(前髪と櫛の接点から顎までの距離)

B. 胴部の長さ(首から帯の中心、ないしは帯締めまで、また帯が見えない場合には帯結び目頂点よりやや下の位置までの距離)

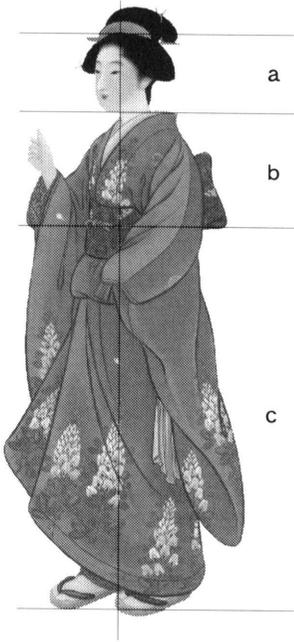


図1 直立姿勢
帯締めが見える場合、
その部分をウェストラインとした。

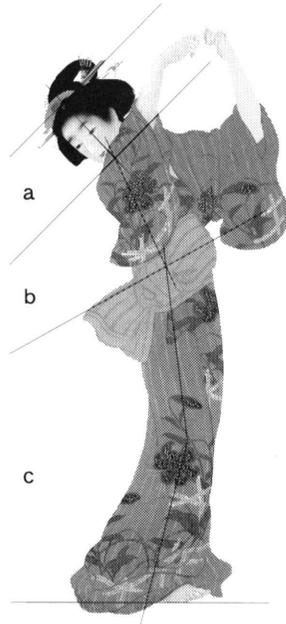


図2 弓なり姿勢
身体が弓なりの場合の測定法。

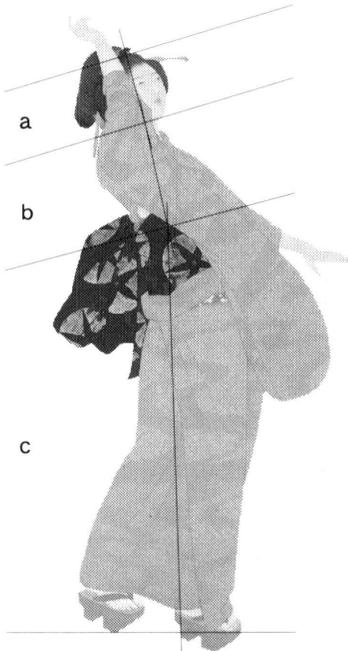


図3 帯締めがない場合
帯の結び目の位置を
ウェストラインとした。

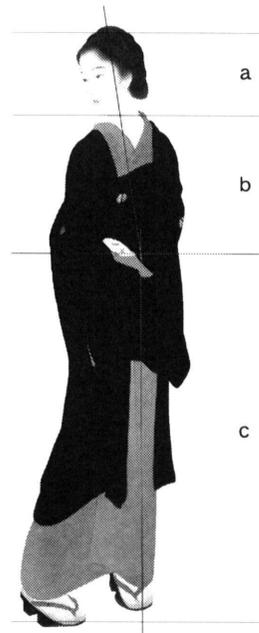


図4 帯が見えない場合
帯山の頂点よりはやや低い位置を
ウェストラインとした。

C. 脚部(但しここではウェストラインからつま先までを指す)の長さ(Bからかかと、またはつま先までの距離)

D. 全身長(A+B+Cの合計)

4) 比の計算

全身長に対する頭部の長さの比(頭身)、全身長に対する胸部の長さの比、また全身長に対する脚部の長さ(D-A-B)の比を求めた。これらの比の約10年間ごとの平均値を求め、それぞれを比較した。その結果は下の表2の通りである。

また全体の中で頭身が他と比較して著しく大きかった10.4頭身の作品は除外した上で平均値を求めた。

表2 年代別平均値

時代	身長/頭部	胸部/身長%	胸部/頭部	脚部/身長%	脚部/頭部	胸部/脚部
1	6.4	25.43	1.62	58.88	3.76	2.34
2	6.4	24.84	1.58	59.33	3.78	2.44
3	7.1	22.91	1.63	62.93	4.47	2.81
4	7.1	22.32	1.58	63.29	4.47	2.90
5	7.1	22.04	1.56	63.74	4.52	3.00
6	7.3	22.02	1.60	64.07	4.66	2.96
7	7.3	23.72	1.72	62.40	4.55	2.73

4. 結果

1) 頭身 [頭部/身長] (グラフ1)

明治20年代までは6.4頭身だったが、明治30年代以降大正末までは7.1頭身と変わらず、昭和初期に入って7.3頭身に伸びている。

2) 身長に対する胸部の比 [胸部/身長%] (グラフ2)

グラフは大正時代の終わりから昭和一桁台を中心にU字型をなしている。明治19年までの25.43%から緩やかな曲線を描いて次第に減少し、昭和一桁台では22.02%と最も少なくなり、昭和10年代になると23.72%と再び多くなってきている。

3) 身長に対する脚部の比 [脚部/身長%] (グラフ3)

グラフは、胸部の割合と逆の山型になる。胸部が短い分だけ脚部は長くなっている。

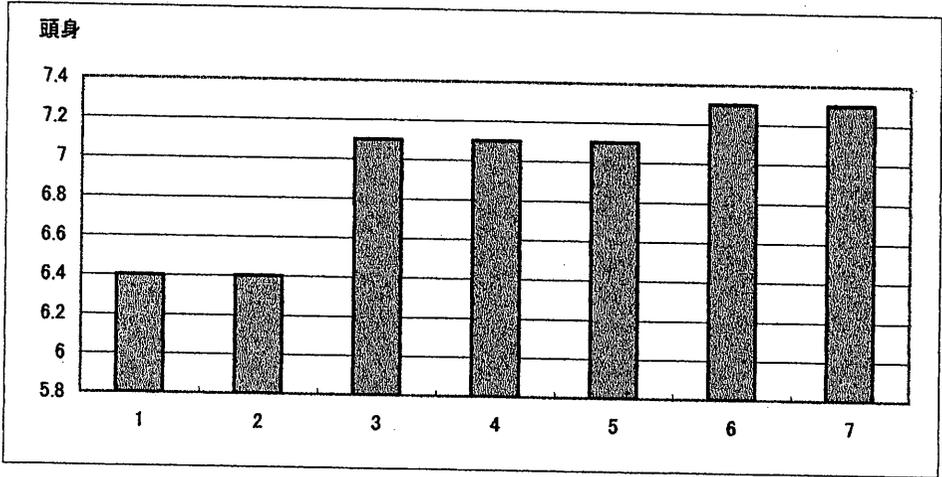
4) 頭部に対する胸部の比 [胸部/頭部] (グラフ4)

明治前期から明治30年代にかけてU字型をしている。また、明治30年代から昭和22年にかけて再びU字型になっている。この二つのU字型の最も低い数値が現れたのは明治20年代と大正6年から15年までである。

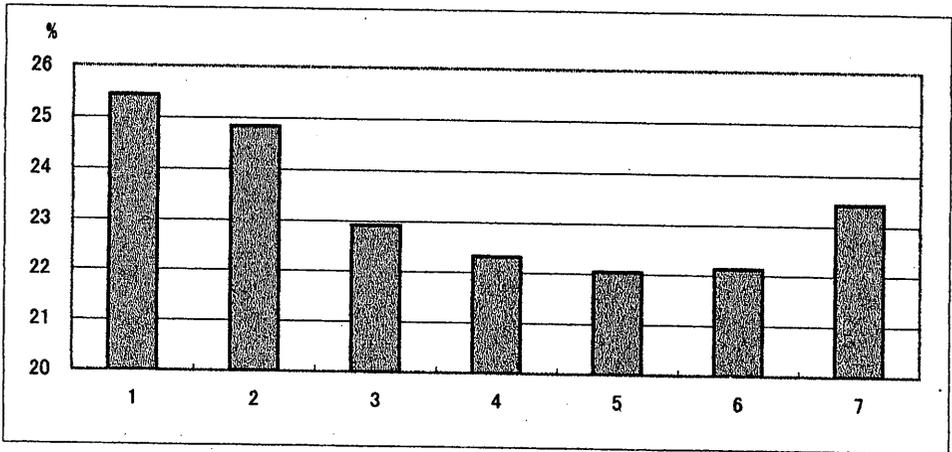
5) 頭部に対する脚部の比 [脚部/頭部] (グラフ5)

明治前期から明治29年にかけては、あまり変化はなく数値は3.55で、その後はほとんど変わらず4.50~4.55となっている。

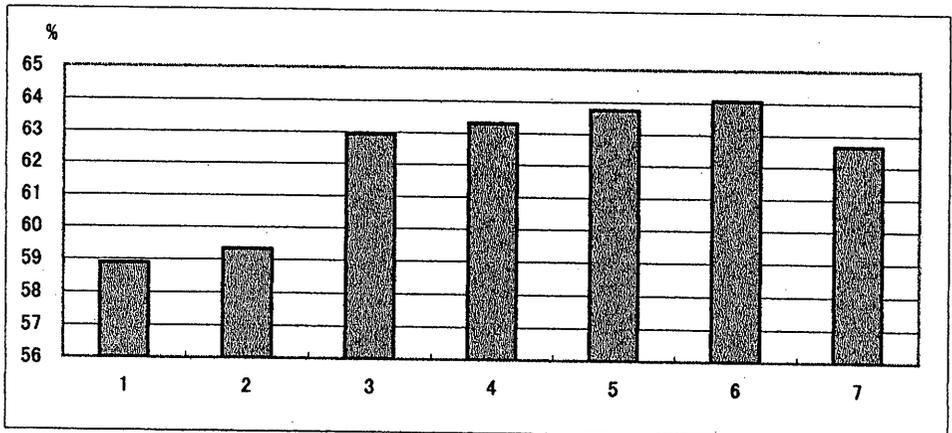
6) 胸部に対する脚部の比 [脚部/胸部] (グラフ6)



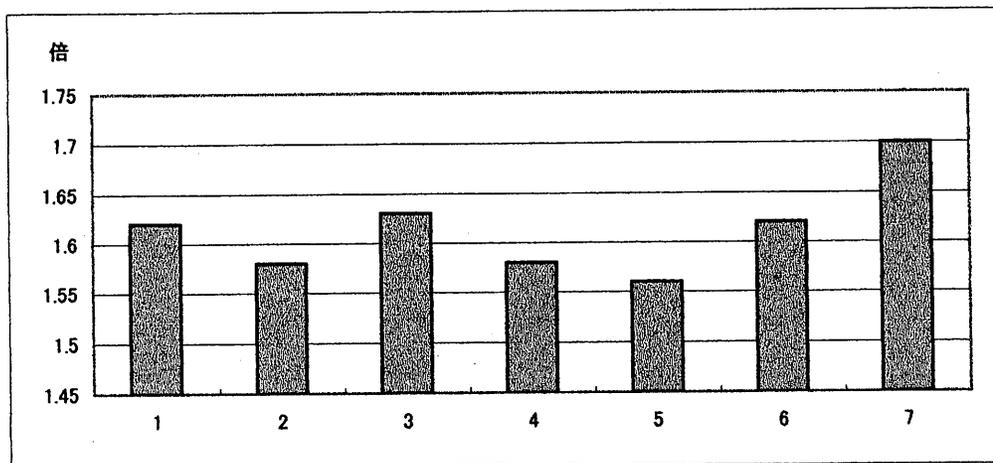
グラフ1 頭身



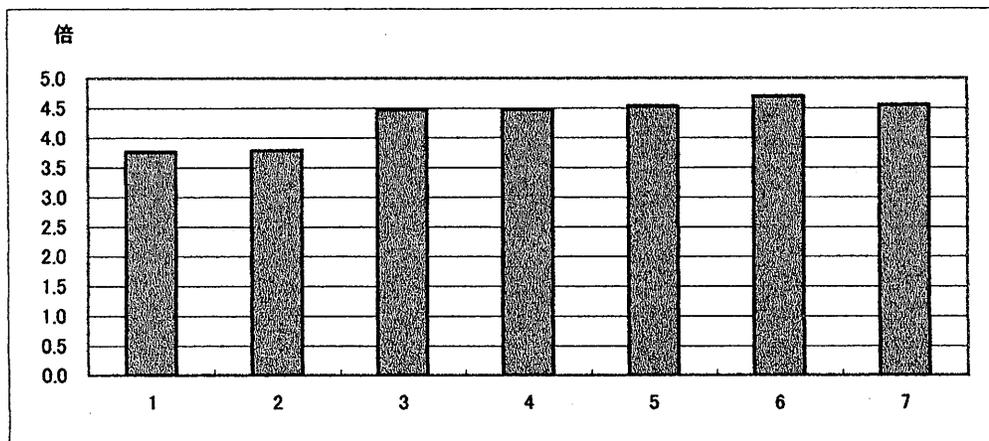
グラフ2 身長に対する胸部の割合



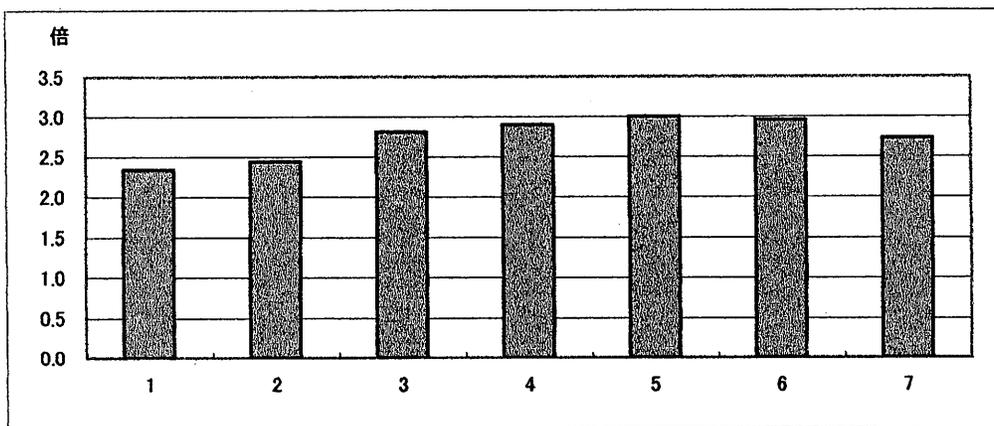
グラフ3 身長に対する脚部の割合



グラフ 4 頭部と胸部の比



グラフ 5 頭部と脚部の比



グラフ 6 胸部と脚部の比

明治前期から20年代までは脚部は胴部の2.3～2.4倍、明治30年代から大正5年までは2.8～2.9倍、大正6年から15年までが最も高い3.0倍となる。その後昭和初期には2.9～2.7倍と僅かながら減少している。しかし頭身が増加しているため、かえって胴部は短く脚部は長い印象を与える。

5. 裁縫教科書における袖付け寸法

教科書は時代の先端的流行を取り上げることは少なく、むしろ一般的に普及した内容が多いと考えられる。現実の一般社会での状況を把握する目的で、また具体的仕立ての状況を伝える数少ない資料として、裁縫教科書を調査した。

女性の長着の着装においては、袖付け寸法が長いと、それだけ帯を締める位置が低くなり、短いと高く結ぶことが可能になる。帯の位置の高低は見せかけのウエストラインの位置を決定づけ、その結果胴部と脚部の比率に影響することになる。そこで各時代の実際の袖付け寸法を知り得る手がかりとして教科書に注目した。

扱ってきた絵画作品と同時期に出版された裁縫教科書のうち調査対象とした教科書と、そこに記載された袖付け寸法を表3に示した。

袖付け寸法は、明治時代26.5cmから33.3cm、大正時代24.6cmから26.5cm、昭和一桁台では21.0cmから25.0cm、昭和10年代では17.0cmから26.0cm、と変化している。各時代とも袖付け寸法に大きな幅があるのは、若い人向きの寸法は短く、中年・老年向きの寸法は長いためである。

6. 絵画に描かれた和装女性のプロポーションと教科書記載の袖付け寸法との対比

1) 明治前期から明治30年頃まで

全体のプロポーションは、明治30年を境に6頭身から7頭身へと変化している。頭部・胴部・脚部の割合は、明治初期から28年にかけては頭部が大きく胴長で脚部が短い。この当時出版された裁縫教科書に記されている寸法では袖付け寸法が長い。平均すると26.5cmで現代の標準寸法と比較すると3cm多い。おそらく同時期の絵画プロポーション調査表に見る胴長で脚部が短いという数値はこのことと関連していると考えられる。

明治時代の写真を見ると帯は比較的下方で占められている。また、日本髪を結っていた為に襟を深く抜いて着付けられたことも、その当時帯を低く結んだことと関連すると思われるのである。

2) 明治30年頃から大正15年頃まで

明治30年代からは、7頭身以上となり頭部は小さくなり胴部も短く、脚部が長いすらりとしたプロポーションになっていることがわかる。

明治の終わりから大正の始めにかけて出版された裁縫教科書には、着物姿を美しく見せる為にはどのようにしたら良いかをテーマとした記述が見られる。たとえば、高橋貴四郎の「新編

裁縫之秘書」(大正4年)の中で「都会の婦人の衣服と、地方の婦人の衣服の様とを比較すると、都会の婦人の姿は著しくすなりとしているように見えますが…」「袖付けが多いと、胴が大き見えるを以て、是を避けんが為、都会の婦人は身八つ口を極端に切り上げて袖と身頃との別を鮮明にし、胸・腹のあたりを筋細に見せている。袖付けを前より後ろを少なくしてありますが、是は帯を高く締めんが為なり。」とし、この本の中ですなりとさせるためには、衣服の着付け方と作り方による、とも述べている。これは、帯高に着付けると胴部が非常に短く見え、頭部がやや大きく見えるものの、脚部は長く見えるという意味である。

今回の絵画の調査結果では、頭身としては、明治30年代から大正の終わりにかけて7.1頭身のまま変化していないが、胴部と脚部の比率は大正6年から15年にかけて最も大きく、最大値3.0を記録しており、この意味で上記の裁縫教科書の記述内容との一致が見られると言える(グラフ6)。中でもその最も極端な例は、竹久夢二の「室之津(図5)」(大正6年、8.2頭身、胴部と脚部の比率3.08)、同じ竹久の「平戸懐古」(大正7年、8.0頭身、胴部と脚部の比率3.40)、鏑木清方の「鷺娘(図6)」(大正9年、8.1頭身、胴部と脚部の比率2.92)である(表1-2 70、77、82参照)。

但し、裁縫教科書に設定された袖付け寸法の数値の上に明瞭な変化が現れるのは、ようやく昭和に入ってからのことである。つまり絵画作品に見られる美しい装いに対する意識が裁縫教



図5 竹久夢二「室之津」
1917年(大正6年)



図6 鏑木清方「鷺娘」部分 1920年(大正9年)

科書にも言葉としてはほぼ同時期に表れていること、そしてこうした意識が裁縫教科書での実際の技術上の変革よりも先行したことが指摘される。

3) 昭和2年以降

頭身は7.3頭身となり、頭部に対する身長比率が大幅に増大した。他方、昭和12年以後は頭部に対する胴部の比率が大正・昭和一桁台期に比べるとやや大きくなり、頭部に対する脚部の比率は反対にやや小さくなっている。しかし上記のように頭身数が大きく増え、頭部に対する脚部の比率は増えているため、全体としては脚部の長い印象を与える。

裁縫教科書に目を転じると、袖付け寸法は昭和に入り大きく減少し、20年代には更に減少している。つまり帯を高く締めて、腰から下を長く見せる方法が、ようやく社会一般に定着していたことを物語っているものと思われる。

7. おわりに

明治30年を境に絵画中の和服女性のプロポーションが大きく変化してきている。裁縫教科書ではまず大正4年に帯を高く結んで偽装プロポーションを作ること薦める記述が現れ、昭和に入ると、教科書指定の袖付け寸法は減少し、和装女性の脚長の偽装プロポーションが実社会に定着したことが伺える。このように絵画の表現に先行されながら、和装の中に美意識上の変化が起こっていたのであり、このことが第二次世界大戦後の急速な洋装化の浸透現象の背景形式の一要因となったと考えられる。

今後は、絵画資料数の一層の充実を図ると共に、同時期の文字資料も加えて検討する必要性を感じている。さらには大正時代から昭和にかけてはグラフィックな分野に女性像が増えてきており、これらを中心的対象として、より後年まで調査の範囲を延ばす予定である。

謝 辞

本研究に用いた教科書の一部に関して、本学博物館に閲覧の便宜をお計り頂きました。北口英雄同館長、石塚泉同副事務長、並びに学芸員室の皆様に末筆ながら深甚なる感謝の意を表します。

註

注) 濱中真治『美人画の誕生、そして幻影』山種美術館31周年記念特別展「美人画の誕生」図録(1997年)所収

図出典

- 図1 寺崎広業 「落花美人」部分 1904年(明治36年)
- 図2 上村松園 「蛭」 1913年(大正2年)
- 図3 山川秀峰 「蛭」 1927年(昭和2年)
- 以上3点 山種美術館特別展「美人画の誕生」山種美術館 1997年
- 図4 鏑木清方 「築地明石町」 1927年(昭和2年)
原色日本の美術 30 近代の日本画 小学館 1997年 第3版第4刷
- 図5 竹久夢二 「室之津」 1917年(大正6年)
現代日本美人画全集8 集英社 1978年
- 図6 鏑木清方 「鷺娘」 1920年(大正9年)
鏑木清方展図録 読売新聞社 1999年

表 1 - 1

	時代	名 称	画家名	身長/頭部	胴部/身長%	胴部/頭部	脚部/身長%	脚部/頭部	胴部/脚部
1	明治前期	美人戯狗図	幸野 棧嶺	6.3	23.61	1.48	60.42	3.78	2.56
2	1875年M8	美人名花十二友画冊	野口 小蘋	6.5	22.22	1.45	62.50	4.09	2.81
3	1875年M8	美人名花十二友画冊	野口 小蘋	6.6	23.29	1.55	61.64	4.09	2.65
4	1875年M8	美人名花十二友画冊	野口 小蘋	6.6	27.85	1.83	56.96	3.75	2.05
5	1875年M8	美人名花十二友画冊	野口 小蘋	6.6	26.58	1.75	58.23	3.83	2.19
6	1875年M8	美人名花十二友画冊	野口 小蘋	6.1	25.32	1.54	58.23	3.54	2.30
7	1882年M15	東京今春芸妓於柳	浅間利恵子	6.0	29.17	1.75	54.17	3.25	1.86
8	1887年M20	美人招涼図	野口 小蘋	6.0	30.77	1.83	52.45	3.13	1.70
9	1887年M20	鴨東妓女図	森 寛齋	5.8	20.91	1.21	61.82	3.58	2.96
10	1887年M20	鴨東妓女図	森 寛齋	6.3	26.67	1.68	57.50	3.63	2.16
11	1889年M22	都のにしき・冬朝の雪	水野 年方	6.5	26.92	1.75	57.69	3.75	2.14
12	1891年-96年	少女図	岸 竹堂	5.8	23.12	1.34	59.68	3.47	2.58
13	1891年-96年	月下少女	寺崎 広業	6.5	20.65	1.33	63.87	4.13	3.09
14	1895年M28	美人紅葉狩	橋本 周延	7.8	23.76	1.85	63.37	4.92	2.67
15	1895年M28	美人紅葉狩	橋本 周延	6.2	27.42	1.70	56.45	3.50	2.06
16	1895年M28	美人紅葉狩	橋本 周延	6.4	23.33	1.50	61.11	3.93	2.62
17	1897年M30	七夕	宮川 春汀	6.8	25.84	1.77	59.55	4.08	2.30
18	1897年M30	桜 狩	宮川 春汀	7.4	30.21	2.23	56.25	4.15	1.86
19	1897年M30	婦女の図 (ものおもひ)	上村 松園	6.1	27.05	1.65	56.56	3.45	2.09
20	1897年M30	日々草・帰るところの図	水野 年方	6.7	22.97	1.55	62.16	4.18	2.71
21	1897年M30	日々草・帰るところの図	水野 年方	7.5	23.49	1.75	63.09	4.70	2.69
22	1898年M31	御殿女中	水野 年方	7.4	26.32	1.94	60.09	4.42	2.28
23	1900年M33	愛 猫	池田 蕉園	7.1	21.72	1.54	64.14	4.54	2.95
24	1902年M35	一葉女史の墓	鏑木 清方	6.0	20.32	1.23	63.10	3.81	3.11
25	1902年M35	天平の面影	藤島 武二	7.7	23.17	1.78	63.81	4.90	2.75
26	1902年M35	春宵怨	梶田 半吉	7.0	19.05	1.33	66.67	4.67	3.50
27	1902年M35	王昭君 (右)	菱田 春草	7.4	19.16	1.41	67.29	4.97	3.51
28	1902年M35	王昭君 (左)	菱田 春草	7.3	18.48	1.34	67.77	4.93	3.67
29	1903年M36	秋 宵	鏑木 清方	7.8	22.46	1.75	64.71	5.04	2.88
30	1904年M36	落下美人	寺崎 広業	7.6	20.71	1.58	66.16	5.04	3.20
31	1904年M37	深沙大王	鏑木 清方	6.6	23.18	1.52	61.59	4.04	2.66
32	1905年M38	お 七	池田 輝方	7.3	22.44	1.64	63.90	4.68	2.85
33	1907年-12年	娘	菊池 契月	6.6	22.90	1.50	61.83	4.05	2.70
34	1907年-12年	摘み草	北野 恒富	6.1	20.61	1.26	63.03	3.85	3.06
35	1907年M40	嫁ぐ人	鏑木 清方	9.2	22.29	2.06	66.88	6.18	3.00
36	1907年M40	わたつみのいるこの宮(左)	青木 繁	9.1	22.27	2.04	66.80	6.11	3.00
37	1907年M40	わたつみのいるこの宮(右)	青木 繁	8.2	22.13	1.81	65.61	5.35	2.96
38	1908年M41	花吹雪	鏑木 清方	6.4	25.75	1.65	58.68	3.77	2.28
39	1908年M41	落葉時雨	鏑木 清方	7.3	26.35	1.91	59.88	4.35	2.27
40	1908年M41	おないとし図	島崎 柳鳩	6.5	22.95	1.50	61.75	4.04	2.69
41	1909年M42	流 燈	横山 大観	7.1	21.64	1.54	64.33	4.58	2.97
42	1910年M43	温 泉	青木 繁	6.7	23.89	1.60	61.15	4.09	2.56
43	1912年-16年	東京十二景・芝浦	石井 柏亭	6.8	24.34	1.64	60.85	4.11	2.50
44	1912年M45	紅葉狩 合作・池田輝方	池田 蕉園	7.6	24.70	1.88	62.15	4.73	2.52
45	1912年M45	紅葉狩 合作・池田輝方	池田 蕉園	7.5	24.76	1.86	61.90	4.64	2.50
46	1912年M45	紅葉狩 合作・池田輝方	池田 蕉園	7.8	20.55	1.61	66.67	5.21	3.24
47	1912年T1	初冬の雨	鏑木 清方	8.1	25.49	2.05	62.09	5.00	2.44
48	1913年T2	蛍	上村 松園	6.6	24.21	1.59	60.53	3.97	2.50
49	1914年T3	野崎村 (娘)	鏑木 清方	7.1	23.40	1.65	62.41	4.40	2.67
50	1914年T3	野崎村 (母)	鏑木 清方	6.2	16.18	1.00	67.65	4.18	4.18
51	1914年T3	君ゆえに	竹久 夢二	6.3	21.13	1.33	63.02	3.98	2.98
52	1914年T3	舞仕度	上村 松園	6.0	23.35	1.40	59.92	3.58	2.57
53	1915年T4	りんどう	竹久 夢二	6.6	23.02	1.52	61.87	4.10	2.69
54	1915年T4	壺屋の夏	竹久 夢二	6.5	22.27	1.45	62.35	4.05	2.80
55	1915年T4	芝居見物	池田 輝方	6.5	20.59	1.33	63.97	4.14	3.11
56	1915年T4	芝居見物	池田 輝方	5.8	24.90	1.44	57.83	3.35	2.32
57	1915年T4	鏡の前	北野 恒富	6.7	16.77	1.13	68.39	4.61	4.08
58	1915年T4	花がたみ	上村 松園	6.8	24.44	1.67	60.90	4.15	2.49
59	1916年T5	箱 根	鏑木 清方	8.6	24.52	2.11	63.87	5.50	2.61
60	1916年T5	江ノ島	鏑木 清方	8.7	24.14	2.10	64.37	5.60	2.67
61	1916年T5	露の干ぬ間・右	鏑木 清方	6.0	16.57	1.00	66.86	4.03	4.03

近代日本女性和装の変遷

表1-2

	時代	名 称	画家名	身長/頭部	胴部/身長%	胴部/頭部	脚部/身長%	脚部/頭部	胴部/脚部
62	1916年 T5	露の干ぬ間・左	鏑木 清方	6.9	21.09	1.46	64.45	4.46	3.06
63	1916年 T5	二人づれ・右	鏑木 清方	7.4	19.53	1.45	66.98	4.97	3.43
64	1916年 T5	二人づれ・左	鏑木 清方	6.9	18.50	1.28	67.00	4.62	3.62
65	1916年 T5	春 雨	下村 観山	7.3	29.41	2.16	56.94	4.17	1.94
66	1916年 T5	夕 月	寺島 紫明	6.7	17.21	1.16	67.91	4.56	3.95
67	1916年 T5	紀国屋	竹久 夢二	6.2	19.49	1.20	64.34	3.98	3.30
68	1917年 T6	黒 髪	鏑木 清方	7.6	27.91	2.12	58.91	4.47	2.11
69	1917年 T6	室之津	竹久 夢二	8.2	21.54	1.77	66.26	5.43	3.08
70	1917年 T6	九連環	竹久 夢二	6.1	19.05	1.16	64.50	3.92	3.39
71	1917年 T6	生ける屍	竹久 夢二	6.1	22.96	1.40	60.70	3.71	2.64
72	1918年 T7	壺すみれ	鏑木 清方	6.8	26.22	1.79	59.11	4.03	2.25
73	1918年 T7	ためさるる日	鏑木 清方	7.1	32.52	2.31	53.40	3.79	1.64
74	1918年 T7	ためさるる日	鏑木 清方	7.1	24.48	1.74	61.46	4.37	2.51
75	1918年 T7	春の那々久佐	鏑木 清方	6.5	20.69	1.35	64.04	4.19	3.10
76	1918年 T7	平戸懐古	竹久 夢二	8.0	19.91	1.59	67.59	5.41	3.40
77	1918年 T7	舞 姫	竹久 夢二	7.0	19.47	1.37	66.32	4.67	3.41
78	1918年 T7	横 櫛	甲斐装楠音	7.1	20.73	1.47	65.15	4.61	3.14
79	1919年 T8	刺青の女	鏑木 清方	7.0	21.20	1.48	64.52	4.52	3.04
80	1919年 T8	春の光	鏑木 清方	6.9	24.50	1.68	60.93	4.18	2.49
81	1919年 T8	白木蓮と乙女	竹久 夢二	7.0	19.78	1.38	65.93	4.62	3.33
82	1920年 T9	鷺 娘	鏑木 清方	8.1	22.36	1.80	65.22	5.25	2.92
83	1920年 T9	逢 状	竹久 夢二	7.4	19.27	1.43	67.28	5.00	3.49
84	1920年 T9	春	竹久 夢二	7.2	17.06	1.23	69.05	4.97	4.05
85	1920年 T9	夏装の女	橋口 五葉	6.5	23.49	1.53	61.21	4.00	2.61
86	1920年 T9	長襦袢の女	橋口 五葉	6.6	21.48	1.42	63.38	4.19	2.95
87	1920年 T9	太 夫	宇田 荻邨	7.0	23.56	1.64	62.07	4.32	2.63
88	1920年 T9	太 夫	宇田 荻邨	7.6	22.16	1.69	64.72	4.93	2.92
89	1920年代	四季の風俗	山村 耕花	7.2	26.87	1.93	59.20	4.25	2.20
90	1920年代	四季の風俗	山村 耕花	6.5	22.05	1.43	62.56	4.07	2.84
91	1920年代	四季の風俗	山村 耕花	6.8	26.54	1.81	58.77	4.00	2.21
92	1921年 T10	水 汲	鏑木 清方	6.4	22.51	1.43	61.78	3.93	2.74
93	1921年 T10	梅やしき	鏑木 清方	7.4	23.30	1.71	63.11	4.64	2.71
94	1921年 T10	蛸	竹久 夢二	6.5	16.32	1.05	68.20	4.41	4.18
95	1921年 T10	桐下別離	竹久 夢二	5.8	20.37	1.18	62.35	3.61	3.06
96	1922年 T11	七 夕	竹久 夢二	6.8	14.81	1.00	70.37	4.75	4.75
97	1922年 T11	灯ともし頃・秋の	竹久 夢二	8.0	18.75	1.50	68.75	5.50	3.67
98	1922年 T11	白 夜	竹久 夢二	6.7	22.92	1.53	62.06	4.13	2.71
99	1922年 T11	忘れ団扇	竹久 夢二	7.2	17.79	1.29	68.38	4.94	3.84
100	1922年 T11	紅蓮白蓮の雪路	伊藤 深水	6.8	20.86	1.43	64.52	4.41	3.09
101	1923年 T12	桜 姫	鏑木 清方	6.6	18.18	1.20	66.67	4.40	3.67
102	1923年 T12	お 玉	中村 貞以	6.8	17.26	1.17	68.02	4.62	3.94
103	1923年 T12	お 杉	中村 貞以	7.1	20.83	1.48	65.10	4.63	3.13
104	1925年 T14	慶長風俗	鏑木 清方	7.0	28.57	2.00	57.14	4.00	2.00
105	1925年 T14	朝 涼	鏑木 清方	7.7	21.60	1.67	65.43	5.05	3.03
106	1925年 T14	十六の春	柿内 青葉	8.8	17.14	1.50	71.43	6.25	4.17
107	1925年 T14	野遊び	和田 英作	8.2	20.11	1.65	67.72	5.57	3.37
108	1925年 T14	野遊び	和田 英作	7.9	21.05	1.67	66.32	5.25	3.15
109	1925年 T14	令女界 表紙絵	落谷 虹児	7.4	17.71	1.31	68.75	5.08	3.88
110	1926年-35年	初 夏	谷角日沙春	6.5	21.34	1.39	63.31	4.13	2.97
111	1926年 T15	千草の丘	松岡 映丘	6.9	20.73	1.43	64.77	4.46	3.13
112	1926年 T15	如月太夫	甲斐装楠音	7.8	26.87	2.11	60.39	4.74	2.25
113	1926年 T15	二人舞妓	中村大三郎	6.8	29.27	2.00	56.10	3.83	1.92
114	1926年 T15	二人舞妓	中村大三郎	6.8	29.27	2.00	56.10	3.83	1.92
115	1926年 T15	梅 雨	伊藤 深水	6.7	24.75	1.67	60.40	4.07	2.44
116	1927年 S2	築地明石町	鏑木 清方	7.1	23.42	1.66	62.45	4.42	2.67
117	1927年 S2	蛸 (中央)	山川 秀峰	7.7	21.77	1.68	65.31	5.05	3.00
118	1927年 S2	蛸 (右)	山川 秀峰	8.4	21.68	1.82	66.43	5.59	3.06
119	1927年 S2	蛸 (左)	山川 秀峰	8.2	23.65	1.94	64.19	5.28	2.71
120	1927年 S2	水亭夜曲	織田 一磨	8.5	27.36	2.32	60.85	5.16	2.22
121	1927年 S2	湯の香り	伊藤 深水	7.7	23.60	1.83	63.48	4.91	2.69
122	1928年 S3	摘み草	入江 波光	6.6	21.29	1.39	63.45	4.16	2.98

表1-3

	時代	名 称	画家名	身長/頭部	胴部/身長%	胴部/頭部	脚部/身長%	脚部/頭部	胴部/脚部
123	1928年S3	百 萬	堀井 香坡	7.7	22.60	1.74	64.42	4.96	2.85
124	1928年S3	羅摩物語	小杉 未醒	8.3	20.20	1.67	67.68	5.58	3.35
125	1928年S3	羅摩物語	小杉 未醒	8.7	20.57	1.79	67.94	5.92	3.30
126	1928年S3	夏の武家屋敷(娘)	鎌木 清方	7.6	24.74	1.88	62.11	4.72	2.51
127	1928年S3	夏の武家屋敷(母)	鎌木 清方	7.7	25.28	1.96	61.80	4.78	2.44
128	1929年S4	紅衣扇舞(部分)	竹久 夢二	7.6	16.78	1.28	70.07	5.33	4.18
129	1930年S5	浜町河岸	鎌木 清方	6.8	21.58	1.46	63.68	4.32	2.95
130	1930年S5	道成寺	鎌木 清方	6.1	16.43	1.00	67.14	4.09	4.09
131	1930年S5	鷲 娘	鎌木 清方	6.8	23.33	1.59	62.00	4.23	2.66
132	1930年S5	七 夕	鎌木 清方	7.4	25.56	1.89	60.90	4.50	2.38
133	1930年S5	十字街を行く	柿内 青葉	7.7	19.41	1.50	67.65	5.23	3.48
134	1930年S5	春 秋	上村 松園	6.0	20.00	1.21	63.41	3.82	3.17
135	1930年S5	春 雨	板倉 星光	7.3	20.78	1.52	65.58	4.81	3.16
136	1930年S5	伊賀の局	伊藤 小坡	7.1	27.41	1.96	58.57	4.18	2.14
137	1931年S6	庭石に	竹久 夢二	7.8	17.67	1.38	69.55	5.44	3.94
138	1931年S6	傾く日ざし	木村 斯光	7.8	27.10	2.10	60.00	4.65	2.21
139	1931年S6	素踊り	山川 秀峰	6.9	25.00	1.72	60.45	4.16	2.42
140	1931年S6	いでゆの雨	梶原耕佐子	6.8	20.42	1.38	64.79	4.38	3.17
141	1931年S6	少女舞戯	中村 貞以	7.0	20.21	1.42	65.53	4.60	3.24
142	1932年S7	縁のつな	勝田 哲	7.0	23.31	1.64	62.47	4.39	2.68
143	1932年S7	序の舞	山川 秀峰	6.6	23.50	1.55	61.36	4.05	2.61
144	1932年S7	虹を見る	上村 松園	8.1	21.90	1.76	65.69	5.29	3.00
145	1932年S7	浴 後	伊藤 深水	6.1	25.86	1.58	57.76	3.53	2.23
146	1933年S8	旗亭涼宵	小早川 清	6.2	23.44	1.45	60.42	3.74	2.58
147	1934年S9	鏡獅子	伊藤 深水	6.5	23.19	1.50	61.36	3.97	2.65
148	1935年S10	梅やしき	鎌木 清方	7.0	20.24	1.42	65.48	4.58	3.24
149	1935年S10	花 見 (右)	鎌木 清方	6.8	24.20	1.65	61.15	4.17	2.53
150	1935年S10	花 見 (左)	鎌木 清方	7.0	21.12	1.48	64.60	4.52	3.06
151	1935年S10	春 苑	上村 松園	8.2	18.70	1.54	69.13	5.68	3.70
152	1935年S10	天保歌妓	上村 松園	7.6	25.85	1.97	61.02	4.65	2.36
153	1935年S10	夕 べ	上村 松園	7.9	19.92	1.58	67.43	5.33	3.38
154	1936年S11	序の舞	上村 松園	6.4	20.20	1.30	64.24	4.13	3.18
155	1936年S11	秋の粧 (右)	上村 松園	6.7	22.80	1.52	62.18	4.14	2.73
156	1936年S11	秋の粧 (左)	上村 松園	7.5	20.41	1.54	66.33	5.00	3.25
157	1936年S11	布晒し	山川 秀峰	7.0	24.17	1.70	61.58	4.32	2.55
158	1936年S11	九 月	寺島 紫明	8.6	21.37	1.83	66.94	5.72	3.13
159	1937年S12	朝ぞら	上村 松園	8.9	23.41	2.09	65.37	5.83	2.79
160	1937年S12	麦 拒	菊池 契月	6.9	23.12	1.59	62.31	4.28	2.70
161	1937年S12	平安神宮の桜	笠松 紫浪	5.8	25.62	1.48	57.02	3.29	2.23
162	1937年S12	平安神宮の桜	笠松 紫浪	6.0	25.93	1.56	57.41	3.44	2.21
163	1937年S12	鱒	鎌木 清方	6.8	16.37	1.12	69.01	4.72	4.21
164	1938年S13	花ざかり	鎌木 清方	7.0	23.30	1.64	62.50	4.40	2.68
165	1938年S13	緑 雨 (右)	上村 松園	7.4	22.11	1.63	64.32	4.74	2.91
166	1938年S13	緑 雨 (左)	上村 松園	7.5	22.45	1.69	64.29	4.85	2.86
167	1938年S13	砧	上村 松園	7.3	24.55	1.80	61.82	4.53	2.52
168	1938年S13	佳 日	中村大三郎	7.2	25.33	1.83	60.80	4.38	2.40
169	1939年S14	お夏清十郎	鎌木 清方	6.5	25.00	1.62	59.52	3.85	2.38
170	1939年S14	お夏清十郎	鎌木 清方	7.2	25.53	1.85	60.64	4.38	2.38
171	1939年S14	雪四題・淡雪	中原 淳一	7.1	16.67	1.18	69.23	4.91	4.15
172	1939年S14	星 (夕空)	北野 恒富	8.6	21.43	1.85	66.96	5.77	3.13
173	1940年S15	雨	勝田 哲	7.6	24.13	1.84	62.73	4.78	2.60
174	1940年S15	良 夜	寺島 紫明	7.6	27.63	2.10	59.21	4.50	2.14
175	1941年S16	汐くみ	上村 松園	7.5	24.40	1.82	62.20	4.64	2.55
176	1941年S16	磯 松	北野 恒富	7.0	24.77	1.74	61.01	4.29	2.46
177	1942年S17	寮の春雨 (右)	鎌木 清方	8.3	25.30	2.10	62.65	5.20	2.48
178	1942年S17	寮の春雨 (左)	鎌木 清方	7.8	22.58	1.75	64.52	5.00	2.86
179	1942年S17	賞 秋	上村 松園	7.4	23.14	1.71	63.32	4.68	2.74
180	1942年S17	朝	上村 松園	7.1	25.44	1.81	60.53	4.31	2.38
181	1942年S17	酸 漿	中村 貞以	6.8	20.10	1.37	65.20	4.43	3.24
182	1944年S19	玉 兔	鎌木 清方	6.9	24.00	1.66	61.50	4.24	2.56
183	1946年S21	水 仙	中村 貞以	6.8	22.84	1.55	62.44	4.24	2.73
184	1947年S22	雨もよひ	中村 貞以	7.5	24.14	1.81	62.56	4.70	2.59

表3-1

番号	発行年	袖付寸法	著者	書名	発行所
1	M11年	26.5	久保田梁山	裁縫教授書・巻上	東京正栄堂
2	M12年	32.1	近藤寿和編	裁縫指掌上之巻	近藤寿和
3	M13年	32.2	近藤寿和	裁縫指掌・上	
4	M13年	28.4	渡辺辰五郎	普通裁縫教授書	渡辺辰五郎
5	M30年	26.5	渡辺辰五郎	裁縫教科書・巻之二	東京裁縫女学校
6	M30年	27.7	渡辺辰五郎	裁縫教科書	東京裁縫女学校
7	M31年	24.6~28.4	錦織竹香	増訂普通裁縫教科書	国文館
8	M34年	24.6	森井貞子・吉国治子	小学校教授用裁縫書(上巻)	吉岡書店
9	M36年	24.6	谷田部順子・小谷野千代子	高等小学裁縫教科書	目黒書房
10	M38年	26.5	前田とみ子・宮川ちい子	裁縫新教科書	自省堂書店
11	M42年	24.6	梶山正式	新令適用小学校 裁縫科教案及教方	東京裁縫教授法研究会
12	M45年	26.5	渡辺 滋	普通裁縫教科書・上巻	文盛堂
13	M45年	24.6~28.4	神田順子	裁縫新教授書	大倉書店
14	M45年	24.6~30.3	渡辺きよ子	和服裁縫独まなび	春江堂書店
15	T2年	24.6	今村順子	新裁縫教科書・上巻	目黒書店・成美堂
16	T2年	22.7~34.0	山口県立山口高等女学校	普通裁縫口授書(上巻)	山口県山口高等女学校
17	T3年	22.7~24.6	武田太郎吉	裁縫の極意	明治出版社
18	T3年	24.6	喜多見佐喜子	裁縫指南	博文館
19	T5年	24.6	文部省	高等小学裁縫教授書	KK 国定教科書共同販売所
20	T5年	22.7	篠田塩子編	裁縫おしへ草	一書堂書店
21	T5年	22.7	楓女史・小畑たか子編	家庭裁縫の菜	岡田文祥堂
22	T5年	22.7~24.6	栗原秀子・大和花子	洋和独まなび	精華堂書店
23	T5年	26.5	吉田房子	裁縫の要訣	石英堂書房
24	T8年	26.5	渡辺 滋	実科高等女学校裁縫教科書	東京裁縫女学校出版部
25	T8年	24.6	奈良女高師校長尾糸	裁縫教科書(上巻)	修文館
26	T8年	22.7~28.4	寺田五三子	家庭裁縫全書(全)	盛林堂
27	T10年	26.5	東京裁縫女学校長	裁縫全書・単衣の部	東京裁縫女学校出版部
28	T10年	26.5	東京裁縫研究会	裁縫案内	芳文堂書店
29	T11年	24.6~25.4	高山 春子	新式・裁縫の仕方	富田文陽堂
30	T11年	24.6~29.9	吉田調子	第七編裁縫と編物	博文館

表3-2

番号	発行年	袖付寸法	著者	書名	発行所
31	T12年	23.0	佐伯ハマ子・渡辺芳苗	裁縫の急所	アルス
32	T12年	22.7~30.3	広島県広島高等女学校 裁縫研究会著代表者、寺地のふ	裁縫備忘録	広島県立広島高等女学校
33	T13年	23.0~26.0	東京女高師成田順	高等小学並に高等女学校に於ける 裁縫教材と其の指導法	南行社
34	T13年	24.0	東京女高師高橋イネ	裁縫筆記録	文書堂
35	T13年	23.0~30.0	飯塚マツヨ	メートル法新裁縫書	大倉書店
36	T13年	25.0内外	財団法人女子美術学校裁縫研究会	メートル法による高等裁縫書(第1巻)	倉持周治商店
37	T13年	25.0	渡辺滋	中等教育新裁縫教科書(前編)	東京裁縫女学校出版部
38	T14年	22.7~26.5	小岩井規太郎・塩田真三	実用裁縫全書	博文館
39	T14年	25.0	奈良女高師伊藤英子	裁縫新教科書	築成堂
40	T14年	22.7~24.6	高山 貞子	裁縫の知識	崇文堂
41	T14年	23.0	田村てう	メートル法使用新裁縫書	宝文館
42	T14年	23.0	岸田興一	裁縫教本(上巻)	神奈川高女学会
43	T14年	25.0	小林れい・丸山ちよ	メートル法裁縫教科書(上巻)	三友堂書店
44	T14年	23.0~25.0	東京女専吉村千鶴	現代裁縫教科書(一巻)	東京開成館
45	T15年	25.0	共立女子職業学校 桜友会裁縫研究部編	贈訂・裁縫教科書 メートル法適用・上巻	共立女子職業学校出版部
46	T15年	24.0~28.0	県立佐賀高女裁縫研究会	裁縫新教本(和服の部)	関西書院
47	T15年	25.0	中川とら・佐藤松野	高等女学校用メートル法適用 新編裁縫教科書(一巻)	大日本図書発行KK
48	T15年	24.5~32.1	戸板関子	実用新式戸板裁縫全書	広文堂書店
49	T15年	23.0	大妻コタカ	模範裁縫教科書(一巻)	三省堂
50	S2年	25.0	成田順・松井よし	女学生の和服裁縫	文洋社
51	S2年	26.5	家庭裁縫学研究会編	家庭裁縫独学	知進社
52	S2年	25.0	大阪府立清水谷高女、結城親学	中等和洋裁縫教科参考	文祥堂
53	S2年	22.5~26.5	岩田英子	和服裁縫参考書	金洋堂書店
54	S2年	25.0	市橋なみ・赤司ちう	メートルと鯨尺対照 裁縫手芸教科書(全)	東京裁縫研究会出版部
55	S2年	22.7	東条武子	家庭裁縫の栞	日吉堂本店
56	S3年	23.0	成田 順	中等教育裁縫教科書I	大成書院
57	S3年	24.6	三松八千代	更新裁縫教科書	目黒書店

表3-3

番号	発行年	袖付寸法	著者	書名	発行所
58	S4年	21.0~23.0	木下 竹次	最新裁縫教科書・上	目黒書店
59	S6年	23.0	神谷ユキハ	家事・裁縫・手芸講座	玄海堂
60	S6年	25.0	渡辺 滋	専門教育・裁縫全書(単衣の部)	渡辺女学校出版部
61	S7年	23.0~25.0	吉村 千鶴	現代裁縫教科書・1巻	東京開成館
62	S7年	19・25・30	石田はる	和服裁縫系統的精説上巻	中文館書店
63	S8年	23.0	奈良女子高等師範学校 裁縫研究会代表 米沢光	裁縫精義	東洋図書
64	S9年	23.0	東京市小学校裁縫研究会	新訂裁縫学習帳(高等2学年)	青野文魁堂
65	S9年	25.0	松村豊・今村品子	新々裁縫教科書(1)	成林堂
66	S9年	23.0	仙台市教育会	裁縫学習帳仙台市 高等小学校第1学年	仙台市教育会
67	S12年	17.0~20.0 23.0~26.0	渡辺女学校 東京女子専門学校裁縫研究会	中学校用 裁縫要義 上巻	渡辺女学校出版部
68	S13年	21.0~25.0	吉村 千鶴	実修裁縫教本 上巻	東京開成館
69	S13年	23.0~25.0	社会教育協会	家事裁縫学習書・雪の巻	社会教育協会
70	S13年	23.0~25.0	福井県鯖江女子師範学校 裁縫研究会	郷土に即せる裁縫学習帳 尋常科第6学年用	福井県国定教科書 特約販売所
71	S13年	23.0~25.0	三重県教育会代表関口勲	新制家事及裁縫教科書(下巻)	日本青年教育会出版部
72	S14年	20.0~27.0	青芳とみ子	和服裁縫百時間教授の実際	婦人之友社
73	S14年	24.6~26.5	高山春子	図解和服裁縫百科全書	大洋社出版部
74	S14年	hyou	岡本すみ	精詳衣服新教本和服編	東京開成館
75	S15年	17・23・27	渡辺女学校 東京女子専門学校裁縫研究会	専門学校用・裁縫要義 上巻	東京開成館
76	S15年	23.0	渡辺女学校 東京女子専門学校裁縫研究会	専門学校用裁縫要義(上巻)	渡辺女学校出版部
77	S16年	25.0	東洋家政女学校編	裁縫大要 全	明治の家庭社
78	S17年	23.0~28.0	渡辺 滋	専門教育・裁縫全書教授改善資料	渡辺女学校出版部
79	S18年	23.0~28.0	神谷操・伊能静子	和洋服裁縫のしるべ	服部文貴堂
80	S19年	23.0	文部省	中等被服II	中等学校教科書(株)